



図

書

館

だ

よ

り

2024年10月
読書週間号①

秋草学園高等学校 図書館

夏日の翌日は寒かったり、最近まで台風が発生したりしていましたが、ようやく落ち着いた秋の訪れを感じられるようになりました。27日から始まった読書週間ですが、この期間は書店や公共の図書館でも各種イベントがあり、楽しめます。もちろん本校図書館でも「POP制作コーナー」や「芋づる式読書map」や「おすすめの1冊」など読書をより広げられる取り組みがあります。さあ、読書の秋到来！新しい本や作者との素敵な出会いがありますように。

お知らせ

長期貸し出し始めます（延滞中の人はまず返却を！）

11月12（火）→1月10日（金）

蔵書点検期間中は閉館します（除返却・コピー機）

11月26（火）→12月9日（月）

今年も読書週間の季節がやってきました！

この一行に 逢いにきた

2024・第78回 読書週間

10/27～11/9



78回目を迎える読書週間、今年の標語“この一行に逢いにきた”をキーワードに、気になる一行をピックアップして、本を紹介します。どこの一行なのか、実際に読んで探してみてください。みなさんそれぞれの素敵な一行に出逢えることを願っています。

思わず笑ってしまった、一行！

914.6-サ 『今日もぼっちです。』

賽助 著 集英社

『フシギバナ大好きおじさん』の誕生です。

ポケモンのリアル脱出ゲームに、1人でフシギバナのTシャツを着て参加したアラフォーの著者。会場にキャラクターTシャツを着ている人はおらず、鞆で隠します。ゲーム始めに配られるポケモンカード（ピカチュウ、トゲピー、リザードン等）の中から、できればピカチュウがいいなと願いますが、「貴方はフシギバナですよ！」とフシギバナのカードを渡されるのでした…。

エッセイ集です。原文の面白さはここで伝えきれません！このエピソード以外もぜひ読んでみてください。



どんでん返し、衝撃の一行！

B913.6-7 『十角館の殺人』

綾辻 行人 著 講談社

「000・000です」（伝説の衝撃の一行はどこなのか確かめてみてください！絶対にわかります。）

大学のミステリー研究会の7人は孤島「角島」にある十角館で合宿をすることに。館では仲間が次々と殺害されていく、綾辻版『そして誰もいなくなった』です。

913.6-3 『アリス殺し』

小林 泰三 著 東京創元社

「これがアリスのアーヴァートル。私の大事な〇〇——〇〇〇よ」（ネタバレ防止のため一部伏せ字です）

夢の中は『不思議の国のアリス』の世界。夢での死は現実とリンクしていた。容疑者にされたアリスは真犯人を見つけ出すことができるのか？衝撃のラストです。



美しく、感動する、一行！

B913.6-1 『重力ピエロ』

伊坂 幸太郎 著 新潮社

春が二階から落ちてきた。

読者の心をグッと掴み、話題となった最初の一行です。「春」は、季節のことではなく、主人公の弟の名前です。どうしてこのような表現をしているのかを、物語的な面から考えつつ読んでみるのもありですね。

913.6-m 『カラフル』

森 絵都 著 理論社

この世があまりにもカラフルだから、ぼくらはみんないつも迷っている。

再び生まれ変わるため、死んだ「ぼく」の魂は、自殺をはかり危篤状態の中学生「小林真」に入りこんだ。失った記憶を取り戻す修行をすることになり…。



司書の今月はこの本読みました



かわいらしい表紙に「不気味の谷」とはなんだろうかと、まるでコナン・ドイルの作品タイトルみたい、と気になり『いつか、あの博物館で。アンドロイドと不気味の谷』（913.6-7 朝比奈あすか 東京書籍）を読みました。

主人公は4人の中学生。4人は1年生の時、校外学習で同じ班になります。普段同じ仲良しグループではありませんが、不思議な繋がりができます。特に女子2人の関係性（活発女子とおとなしめ女子がお互いに尊敬し、支えになっているところ）は、胸が熱くなる尊さです。「不気味の谷」とは何か、ぜひ確認してみてください。【吉村】